

健康♪外来ニュース

皮膚病

No. 72 令和7年4月15日

深さが決め手

★皮膚の細菌感染症は、皮膚の傷から菌が入り、表皮では伝染性膿痂疹(とびひ)、真皮では丹毒、真皮以下では蜂窩織炎(浮腫のある下肢に多い)となる。

★メラニン色素沈着は、表皮では黒色、真皮では褐色、さらに深部では青色に見える。

★自己免疫性疾患の天疱瘡は表皮内に水疱ができ、類天疱瘡(高齢者、DPP-4阻害薬がリスク)は基底膜に水疱ができる。

★刺激による角質肥厚が原因の「たこ」は外に向かって肥厚するが、「うおのめ」(中央に芯がある)は神経が存在する真皮に向かって肥厚するので痛みを生じる。

★皮内注射は表皮と真皮の間(免疫細胞が多い)に注入。吸収が非常に遅く、免疫反応が持続する(ツベルクリン反応、アレルギー検査)。皮下注射は皮下組織に注入。ゆっくり吸収され持続する薬効が得られる(インスリン、予防接種)。筋肉内注射は薬が血管内に入りやすく、薬の吸収速度は皮下注射の約2倍とされる。

皮膚の構造と皮疹

皮膚は、体重の約16%を占め、表面積が畳1枚分1.6㎡に相当する人体最大の臓器で、三層構造をしています。

①表皮: 厚さ約0.2mm。基底層の細胞が約1.5か月かけて、角質(厚さ約0.02mm)となり垢やフケとして脱落します。皮膚病の39%を占める湿疹には、蕁麻疹やアトピー性皮膚炎(健康外来ニュースNo.53かゆみ をご覧ください)、乾燥して皮膚バリアが壊れる脂質欠乏性湿疹(下肢に多い)、細菌が脂質を脂肪酸に変えて起こす脂漏性皮膚炎などがあります。13%を占める白癬菌症では、中心治癒傾向と周辺に鱗屑(角質の剥がれ)を伴います。他に炎症性角化症(擦れる場所にできる尋常性乾癬、薬・歯科金属・C型肝炎の関与を疑う扁平苔癬、喫煙・扁桃炎の関与を疑う掌蹠膿疱症)など。皮疹の表面がザラついているのは表皮の病変、ツルツルなのは真皮以下の病変であることを示します。

②真皮: 厚さ約2mm、基底膜0.1mmで表皮と分離され、コラーゲンを含み、血管、リンパ管、神経が分布し、免疫細胞、毛根があります。女性に多く上気道感染・自己免疫性疾患と関連する結節性紅斑など。紅斑は、血流が増えた状態で圧迫すると消えるので、出血で起きる紫斑と区別できます。

③皮下組織: 厚さ2~10mm。脂肪組織が緩衝・保温材の役割をします。蜂窩織炎、静脈うつ滞性脂肪織炎など。深い部位にあるので皮疹の輪郭がぼやけて見えます。

(皮膚の構造: 梶島健治: 人体最強の臓器・皮膚のふしぎ Blue Backs。主旨引用: 松田光弘: 誰も教えてくれなかった皮疹の診かた考えかた。松田光弘: 皮膚疾患データブック、医学書院)。

外用薬

軟膏は、油分が多く低刺激性で皮膚保護(保湿)作用があるので潰瘍にも使える。クリームやゲルは、刺激性だがべたつきがない。ローションは、液体なので頭皮などに塗りやすい。テープ剤には、閉鎖密封療法(ODT)の効果もある。ステロイド剤は、アトピー性皮膚炎などでは、吸収されやすい額・頬にはミディウム(Ⅳ群)以下、他部位にはストロング(Ⅲ群)以上を使用する。



医療法人 祥佑会

藤田胃腸科病院

〒569-0086 高槻市松原町17-36

TEL 072-671-5916

FAX 072-671-5919

健康♪外来

水曜日 14:00~17:00(要予約)

担当: 中嶋